

火をもって応える神

シリーズ～預言者の声～

2022/5/15

北イスラエル王国の王たち

名前	治世	
ヤロブアム	22年	北王国初代の王
ナダブ	2年	家臣バシャの謀反により死亡
バシャ	24年	ヤロブアムの罪を繰り返した
エラ	2年	家臣ジムリの謀反により死亡
ジムリ	7日	オムリとイスラエルの軍に包囲され 自害
オムリ	12年	サマリアを購入し、首都とした
アハブ	22年	北王国史上最悪の王。妻イゼベル はシドン人

アハブ王

「オムリの子アハブは彼以前のだれよりも主の目に悪とされることを行った。彼はネバトの子ヤロブアムの罪を繰り返すだけでは満足せず、シドン人の王エトバルの娘イゼベルを妻に迎え、進んでバルに仕え、これにひれ伏した。サマリアにさえバルの神殿を建て、その中にバルの祭壇を築いた。アハブはまたアシェラ像を造り、それまでのイスラエルのどの王にもまして、イスラエルの神、主の怒りを招くことを行った。」

列王記上16:30-33

預言者エリヤ登場

- エリヤは大干ばつを預言した

- ティシュベ人エリヤはアハブに言った。「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。わたしが告げるまで、数年の間、露も降りず、雨も降らないであろう。」17:1

- バアルとアシェラ

- バアルとアシェラは「農耕の神」(天候を支配する神)と信じられていた
- パレスチナ在住の初期からイスラエルの民を惑わす土着の神であった
 - 「イスラエルの人々は主の目に悪とされることを行い、バアルに仕えるものとなった。」士師記2:11

列王記上18章1, 16～39節

多くの日を重ねて三年目のこと、主の言葉がエリヤに臨んだ。「行って、アハブの前に姿を現せ。わたしはこの地の面に雨を降らせる。」…

オバドヤはアハブに会って知らせたので、アハブはエリヤに会いに来た。アハブはエリヤを見ると、「お前か、イスラエルを煩わす者よ」と言った。エリヤは言った。「わたしではなく、主の戒めを捨て、バアルに従っているあなたとあなたの父の家こそ、イスラエルを煩わしている。今イスラエルのすべての人々を、イゼベルの食卓に着く四百五十人のバアルの預言者、四百人のアシェラの預言者と共に、カルメル山に集め、わたしの前に出そろうように使いを送っていただきたい。」

アハブはイスラエルのすべての人々に使いを送り、預言者たちをカルメル山に集めた。エリヤはすべての民に近づいて言った。「あなたたちは、いつまでどっちつかずに迷っているのか。もし主が神であるなら、主に従え。もしバアルが神であるなら、バアルに従え。」民はひと言も答えなかった。エリヤは更に民に向かって言った。「わたしはただ一人、主の預言者として残った。バアルの預言者は四百五十人もいる。我々に二頭の雄牛を用意してもらいたい。彼らに一頭の雄牛を選ばせて、裂いて薪の上に載せ、火をつけずにおかせなさい。わたしも一頭の雄牛を同じようにして、薪の上に載せ、火をつけずにおく。そこであなたたちはあなたたちの神の名を呼び、わたしは主の御名を呼ぶことにしよう。火をもって答える神こそ神であるはずだ。」民は皆、「それがいい」と答えた。

エリヤはバアルの預言者たちに言った。「あなたたちは大勢だから、まずあなたたちが一頭の雄牛を選んで準備し、あなたたちの神の名を呼びなさい。火をつけてはならない。」彼らは与えられた雄牛を取って準備し、朝から真昼までバアルの名を呼び、「バアルよ、我々に答えてください」と祈った。しかし、声もなく答える者もなかった。彼らは築いた祭壇の周りを跳び回った。真昼ごろ、エリヤは彼らを嘲って言った。「大声で呼ぶがいい。バアルは神なのだから。神は不満なのか、それとも人目を避けているのか、旅にでも出ているのか。恐らく眠っていて、起こしてもらわなければならないのだろう。」彼らは大声を張り上げ、彼らのならわしに従って剣や槍で体を傷つけ、血を流すまでに至った。真昼を過ぎても、彼らは狂ったように叫び続け、献げ物をささげる時刻になった。しかし、声もなく答える者もなく、何の兆候もなかった。

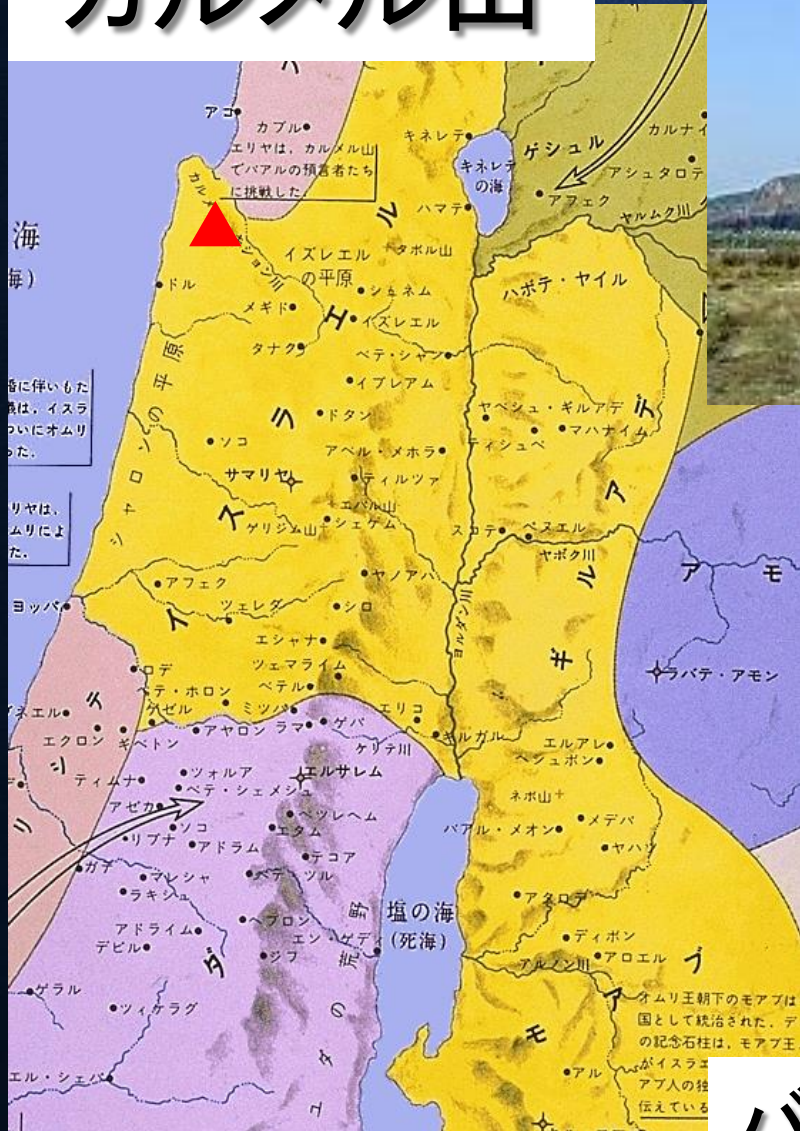
エリヤはすべての民に向かって、「わたしの近くに来なさい」と言った。すべての民が彼の近くに来ると、彼は壊された主の祭壇を修復した。エリヤは、主がかつて、「あなたの名はイスラエルである」と告げられたヤコブの子孫の部族の数に従って、十二の石を取り、その石を用いて主の御名のために祭壇を築き、祭壇の周りに種二セアを入れることのできるほどの溝を掘った。次に薪を並べ、雄牛を切り裂き、それを薪の上に載せ、「四つの瓶に水を満たして、いけにえと薪の上にその水を注げ」と命じた。彼が「もう一度」と言うと、彼らはもう一度そうした。彼が更に「三度目を」と言うと、彼らは三度同じようにした。水は祭壇の周りに流れ出し、溝にも満ちた。

献げ物をささげる時刻に、預言者エリヤは近くに来て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ、あなたがイスラエルにおいて神であられること、またわたしがあなたの僕であって、これらすべてのことをあなたの御言葉によって行ったことが、今日明らかにになりますように。わたしに答えてください。主よ、わたしに答えてください。そうすればこの民は、主よ、あなたが神であり、彼らの心を元に返したのは、あなたであることを知るでしょう。」すると、主の火が降って、焼き尽くす献げ物と薪、石、塵を焼き、溝にあった水をもなめ尽くした。これを見たすべての民はひれ伏し、「主こそ神です。主こそ神です」と言った。

カルメル山の対決

- 干ばつになって3年目、エリヤはアハブ王に、バアルの預言者らをカルメル山に集めるよう告げた
 - 妻イゼベルはバアルの預言者450人、アシェラの預言者400人を養っていた
- カルメル山でエリヤはまず民に問うた
 - 「あなたたちは、いつまでどっちつかずに迷っているのか。もし主が神であるなら、主に従え。もしバアルが神であるなら、バアルに従え。」
18:21
- 民は主なる神にもバアルにも仕えていた！

カルメル山



バアルのレリーフ

1 対 850

- 祭壇の上に雄牛を置き、どちらの神が火（雷）を下すか試そう、とエリヤは言った
 - 「『そこであなたたちはあなたたちの神の名を呼び、わたしは主の御名を呼ぶことにしよう。火をもって答える神こそ神であるはずだ。』民は皆、『それがいい』と答えた。」24
- バアルとアシェラの預言者は体を傷つけて祈ったが何も起こらなかった
 - 「真昼ごろ、エリヤは彼らを嘲って言った。『大声で呼ぶがいい。バアルは神なのだから。神は不満なのか、それとも人目を避けているのか、旅にでも出ているのか。恐らく眠っていて、起こしてもらわなければならないのだろう。』」27<挑発するエリヤ

1 対 850

- 天候の神である
バアルの側に
都合の良い戦い

エリヤの願い

- イスラエルの部族数に従って12の石で祭壇を築いた
 - エリヤは全イスラエルのために戦った
 - エリヤは祭壇のまわりに溝を掘り、溝に満ちる程祭壇に水を注がせた＞ハンデを与えた
- エリヤが願っていたこと
 - 「主よ、あなたがイスラエルにおいて神であられること、またわたしがあなたの僕であって、これらすべてのことをあなたの御言葉によって行ったことが、今日明らかにになりますように。」

火をもって応える神

- 即座に応えられた主なる神
 - 「すると、主の火が降って、焼き尽くす献げ物と薪、石、塵を焼き、溝にあった水をもなめ尽くした。」
 - 実は雷を支配しておられるも主なる神だった
- 主こそ唯一の神であることを知った民
 - 「これを見たすべての民はひれ伏し、『主こそ神です。主こそ神です』と言った」39
 - どっちつかずをやめ、態度を明確にした民

このお話が教えること

- 知らず知らずのうちにいろいろなものに頼っていませんか？
 - 人・お金・保険・仕事・医療…
 - これらのものも必要ですが
- 根本的に頼るべき方を決めなさい！
 - 「どっちつかず」こそ神が最も嫌われる状態
 - もちろん頼るべき方はお一人である！
- 試されているの信仰の純粹さ
 - 「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。」黙示録3:15